

第2回 県庁舎のあり方検討会 主な意見

日時：令和8年3月25日（水）13：30～15：00

場所：県庁4階大会議室

〈議事概要〉

【久保田座長】

- ・ 前は初回ということもあり論点を絞らずに自由に意見をいただいた。今回はより具体的な論点に踏み込んでいきたい。
- ・ 資料 P36 において本日の論点が示されている。それぞれの専門の立場から意見をいただきたい。

【品川委員】

- ・ 県民は DX、AI、働き方改革にどう取り組めばよいかイメージができていないと思われる。モデルとなる人や場所が必要であり、県庁で県職員が最先端の働き方を見せることが望ましい。富山県のシンクタンク・ブレインとして、県民にとってのモデルルームになるべきである。
- ・ 愛知県の STATION Ai を見学したが、コワーキングスペースがあり多くの議論が生まれていた。そういう場所に県庁舎がなるとよい。
- ・ エンゲージメント調査を見ると若い世代が低い。庁舎環境の改善によってエンゲージメントの改善効果に期待したい。
- ・ 県庁舎本館は歴史的価値があり、県民が誇りを持てる場所として産業博物館のような機能が望ましい。富山県の産業・自然・食など県民や海外の方がまず訪れる場所になり、こどもたちの社会見学の場所として機能するとよい。

【難波委員】

- ・ 県庁をまちに開くことの意義を明確にする必要がある。何のためにどの程度の範囲で開くか。事業者サウンディングの意見を見ても、どこまで民間ができるのかという問い掛けもある。
- ・ 民間事業者の意見にあるように、完全に商業空間にするということではないだろう。ここに県庁機能が残る意味を考えるべきである。スタートアップとの連携など、開かれた上で役所として繋がって行くという方向性が重要である。
- ・ 県庁機能の全部は本館に残せないと思われ、民間ビルや支所に移すことを検討することになる。
- ・ モデルオフィス事業について、業務単位や意思決定のあり方、扱う情報の性質などによって、どんなユニット単位で配置されるべきかなど、より細かく見ていくことが望ましい。

- ・ 現在の本館には、訪問者が中で時間を過ごす場所がほとんどない。現状、訪れる場所にはなっていない。

【佐藤委員】

- ・ 20 都道府県の庁舎を見てきたが、富山県の本館は働きにくいと思われる。個々の部屋が分けられてスペースが小さく、職員の働く環境を真剣に考える必要がある。ソフトだけでなくハードも変える必要がある。
- ・ 県庁周辺エリア基本構想の検討会において、まちづくりの視点で南北に開放して軸を通すという方向性があった。通常、県庁舎はあまり市民県民が訪れない場所である。働く方からすると、人が出入りすることは働きにくさに繋がる可能性がある。しかし、まちづくり等のために施設を開放していく。その際には、開放する施設に残す機能を丁寧に整理する必要がある。
- ・ 行政サービスは将来的に小さくなり、役割分担が変わってくる。また、今後、市町村から県に役割が寄せられる可能性もある。しなやかに柔軟性を持った対応ができるように準備する必要がある。

【岡田委員】

- ・ 事前に本館の見学をしたが、天井が高いなど歴史の重みを感じ厳かな気持ちになる。最近の似たような外観・内観の建物とは異なり、本館は自己主張がある建物である。
- ・ 一方で、働く環境としては大変と思われる。暑さ寒さの問題、執務スペースが限られるなど、大変に窮屈そうに感じる。
- ・ 執務環境はコスト削減の対象としがちで「税金で贅沢できない」とよく言われるが、これは基本的人権に関わるものである。
- ・ エンゲージメントの改善に向けて、少しの工夫で変化を生むことは可能である。群馬県では空調設備を改善し、休憩時間の消灯も無くして明るくした。現状の富山の本館にはちょっとした相談や気分転換ができるスペースがない。
- ・ 県民目線だけでなく、県職員にとってのあるべき姿も視野に入れてよいと考える。

【香山委員】

- ・ 働きにくさということを一般論では話せない。県庁舎にとっての課題は何か。現状の課題に対応するだけでは、課題解決のみになる。まずは「あるべき姿」から考えていくプロセスが必要である。
- ・ 縦割り組織で固定席の状況がある中で、いかに組織内で接点のようなものを生み出せるか。コミュニケーションの場を単純に作るのではなく、企業や大学、スタートアップ、県民など、誰とどういう接点を持つことで何が生まれ

るか、という視点で考えるとよい。

【宇田川委員】

- ・ 災害時の帰宅困難者については県庁舎での受入れというよりも周辺施設も含めて考えるべきである。
- ・ 本庁舎での災害時の必要スペースの検討等では、防災危機管理センターで対応できない範囲に絞って対応することになるだろう。
- ・ 応急復旧期では、民間企業やNPOなどとも庁舎に受入れて連携し、被災地域にどのような支援が必要なのか考えていくことになる。ただ、災害時に急に連携は難しいので、フェーズフリーの考え方として、平時から組織文化の異なる民間企業との連携が効果的である。その意味では、平時からコワーキングスペースなどで交流ができる環境確保は、空間としてハード的にも組織としてソフト的にも望ましい。

【井領オブザーバー】

- ・ 業務の半分をAIで実施できる状況になっている中で、歴史的価値や厳かな環境というのは付加価値がある。
- ・ PCを使うホワイトカラーはAIで代替可能であり、無くてもよい業務は無くす、無くしてはいけないものはAIと議論しながら対応していくことになる。代替可能性で区別していく。
- ・ 近くに先輩がいてフォローしてもらえるとというような人間的な価値は残るだろう。

【岩本オブザーバー】

- ・ 県庁舎という物理的な存在がある必要があるか。基礎自治体と異なり窓口業務はほとんどない。この場所に存在する必要があるか、県民は特に求めている可能性がある。
- ・ 現場に行くことが望ましい。庁舎があるからそこで働き、机に向かって政策を作ることになる。物理的な庁舎に引っ張られないように、現場主義が望ましい。

【久保田座長】

- ・ ご意見の中で早めに議論すべき論点として以下を挙げたい。その他の論点は来年度以降になる。
- ・ 1点目は、オフィス環境や生産性向上についてである。2点目は、古いが厳かで立派な県庁舎本館の建物についてである。3点目は、県民のニーズについてである。
- ・ まず1点目について、働きやすさの課題はある。モデルオフィス事業のアン

ケートを見ると、否定的な意見があるが解決不可能なものではない。具体的な仕事内容にフォーカスを充てる必要がある。

【品川委員】

- ・ 自社では数年で全業務フリーアドレス化を実現した。当初は否定的な意見も出たが、徐々に不満よりも新しい提案が出てきた。まずやってみることが大事である。

【岡田委員】

- ・ 群馬県ではフリーアドレスを DX 課のみで当初実施したが、始めたときは否定的な意見が多かった。一方で、什器やカーペットを変えるだけでも気分が変わる。
- ・ あまり実施されないような堅い部署から率先して変化を起こすとよい。

【難波委員】

- ・ 温熱環境や照明などの心理的なストレス改善の側面は誰も否定しない。一方で、上司に相談できないなどの業務的なストレスについては、区別して考える必要がある。
- ・ 働き方については、人をどう育成していくかをセットで考えるべきである。チームマネジメントの観点で、育成計画がないと若い人は迷子になる。

【佐藤委員】

- ・ 県民のモデルになるべきであり、その一歩として例えばフリーアドレスなどに取り組むことはよい。

【岩本オブザーバー】

- ・ モデルオフィスから戻ってからフリーアドレスを継続して実施している部署はいないと伺った。変化のチャンスであるが、勿体ない。フリーアドレスやペーパーレスなど、まず実行できる環境整備は積極的に進めるべき。モデルオフィスだけで終わらせず、トップダウンで働き方改革を徹底すべき。

【久保田座長】

- ・ オフィス環境が快適であることは重要であり、世間の水準と乖離すると職員のモチベーション低下や採用力低下の恐れがある。

【久保田座長】

- ・ 次に 2 点目の県庁舎本館の建物そのものをどうしていくかについて考えたい。現状は県庁職員のオフィスであり民間機能が入る大きな余地はない。全

館を執務スペースとするか、または一部を移転して民間の機能を入れるなど、考えていく必要がある。

- ・ 現状でも、周辺の 11 カ所に分散している。今の 1,670 人程度の職員について、今後人口減少が続く中でこの数が維持されるかどうか。

【佐藤委員】

- ・ 県庁周辺エリア基本構想の検討会では、南別館をどうするかという課題も出ていた。

【難波委員】

- ・ 基本構想の検討会において、最も重要なキーワードはウォークブルであると考えられる。本館や南別館について、南北に通すために 2F だけでも開けられるか、セキュリティをどうするか、市民県民の催しイベントを開催できるか、など検討事項となる。
- ・ 欧州では庁舎でパーティーを開催するケースが多い。一方でそのためにはセキュリティが不可欠となる。

【宇田川委員】

- ・ 防災危機管理センターは平時の空きスペースが多いかもしれないが、災害時の応援受け入れのためにあえて空けているスペースが多い。その意味では、平時にはコワーキングスペースのような機動的な使い方は望ましい。
- ・ 事務局から説明があったとおり、人口減少が続く中で、庁舎内で職員が行う必要性の高い業務を整理して執務環境を検討できると効果的ではないか。

【品川委員】

- ・ フリーアドレスに取り組むだけで、2~3 割はスペースが空くことになる。まずやってみて規模を考えていくことが望ましい。

【久保田座長】

- ・ 今後に向けて、本館のあり方にどんなパターンがあり得るのか、いくつか選択肢を整理するとよい。それぞれのメリット・デメリットを整理して、比較することが望ましい。

【久保田座長】

- ・ 3 点目の県民ニーズについて、来年度も引き続きサウンディングを実施するということであるが、民間企業だけでなく一般の県民のニーズも汲み取る必要がある。
- ・ 令和 6 年度のアイデアコンペにおいて県庁舎に言及した提案作品を改めて

整理してみるのもよい。

【難波委員】

- ・ 可能であれば、県庁前公園や城址公園に訪れた方に意見を聞いてみることもよい。庁舎がどう見えているかを聞き出せるとよい。

【久保田座長】

- ・ NHK跡地イベントの参加者もよいだろう。